

「平成 29 年 8 月 1 日に思う」

“台風の子”を前にして、早くもまた、今までに経験したことのない大雨が発生しました。

7 月 5 日から 6 日にかけて九州北部地方で発生したこの豪雨は、「平成 29 年 7 月九州北部豪雨」と名付けられ、記録的短時間大雨情報が「2 日間で 19 回」も発表されました。

九州といえば、ちょうど 5 年前にも同地域で「平成 24 年 7 月九州北部豪雨」と命名された記憶に新しい大雨が発生しています。「災害は忘れたころに…」は遠い昔の話でしょうか

記録的短時間大雨情報とは、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測し、その降雨が水害や土砂災害につながる雨量であることを知らせるもので、各地域で基準は違えど概ね 1 時間雨量が 100 ミリを超えた時に発表されます。

今回福岡県朝倉市では、1 時間雨量で 129.5 ミリもの猛烈な雨が観測され、さらに 1 日の総雨量が 545.5 ミリを記録しました。いずれも今年最高となるものです。

(8 月 1 日現在)

ちなみに昭和 34 年の伊勢湾台風では、迫付近で最大 1 時間雨量が 86 ミリ、1 日の総雨量は 562 ミリと記録されています。(広報「村政だより」第 27 号より)この数字からも、今回の雨がいかに“異常”であったかがうかがえます。

被災した地域の皆さまには心よりお見舞い申し上げ、一刻も早い復旧を願うとともに、気がかりな台風シーズンを前にして今から“命を守る行動”を考え、備えてほしいと思います。